

「あいさつ」を大切に

新年あけまして

おめでとうございます。

旧年中は、人権機関有田川の啓発活動に多くの皆様のご参加を頂き有難うございました。

また「あいさつ」をテーマにした人権標語を募集したところ多くの方よりご応募を頂き感謝しております。「あいさつすれば広がる笑顔の輪」など素晴らしい作品が寄せられ、通信手段の発達等により人と人をつなぐ関係が希薄になる中で、「あいさつ」の大切さを再認識する機会になりました。昨年も人権が侵害される事例や、いじめや虐待によって尊い命が絶たれる心痛む事件などが多く報道されました。改めて、「人権」の大切さを感じているところです。

本年も人権有田川では、講演会、映画会の開催や研修会などを通じて、命の尊さや、人と人とのふれあい、優しさや、思いやりの大切さを、多くの町民の皆様と学び、考えながら更なる人権意識の向上に努めたいと思います。

人権機関有田川

会長 森 本 奉 子

映画会のおしらせ

◇「ペコロスの母に会いに行く」

とき／2月7日(土)

午後2時

ところ／きびドーム

長崎で生まれ育った団塊世代のサラリーマン、ゆういち。

ちいさな玉ねぎ・ペコロスのようなハゲ頭を光らせながら、漫画を描いたり、音楽活動をしなが、彼は父さとの死を契機に認知症を発症した母みつえの面倒を見ていた。

迷子になったり、汚れたままの下着をタンスにしまったりするよな彼女を、ゆういちが断腸の思いで介護施設に預けることに。苦労した少女時代や夫との生活といった過去への意識がさかのぼっている母の様子を見て、彼の胸にある思いが去来する。



お知らせ

1月15日(木)、人権擁護委員特設相談所を開設いたします。

●場所／金屋文化保健センター

●時間／午後1時から4時まで

※相談は無料で、秘密は厳守されます。

昨年、和歌山県・(財)和歌山県人権啓発センターが、人権について改めて考えていただくという趣旨で募集した「人権の詩(こころのうた)2014」の中学生の部において知事賞に受賞されました作品を紹介します。

また、八幡中学校、白馬中学校の二校が人権の詩(こころのうた)取組優秀校(感謝状)に選ばれました。

めがねをかけはじめた。

周りのものがはっきり見えるようになった。

めがねをはずしてみた。

周りのものがはっきり見えなくなった。

めがねをかけ始めてから、

はっきり見えなくてもいいものもあるんじゃないかと思ひ始めた。

悲しいことやつらいことがあったときは、「心のめがね」をはずして、はっきり見なくていいじゃないか。

でも、違った。

はっきり見えなくていいことだって、しっかり受けとめて、はっきり見れば、必ず乗り越えられる。

めがねをかけ始めた。

周りのものがはっきり見えるようになった。

「心のめがね」もかけ始めた。

すべてをはっきり見るために、絶対はずさないって決めた。

人権の詩 2014 知事賞(中学生の部)
「めがね」 金屋中学校3年 榎本 真子さん

■人権に関するお問い合わせ
有田川町教育委員会
社会教育課

TEL 52-2111
FAX 32-4827